

銀杏の花言葉は莊嚴長寿鎮魂
彼らは私にそれを押し付けてしめやかに去っていった
今年も春がやってくる
その度に私たちは自己を拡大させそして希薄になっていく

千回目の誕生日は盛大に行われた
この狭い植物園に全人類が集まったというのだから驚きだ
みんなが手を合わせて名前を呟く
まあそれ私じゃなくて隣の田口さんの渾名なんだけど

そんなことより私は誰かに私の話を聞いてほしかった
ただ祈りを捧げられてもそこに私はいない
悪臭を纏う実を振り落したところで私は気が付いた
私って誰？

思い出せない
病室の中交わした約束
ずる休みをして二人で行ったところ
そして彼が最後に何を残したのか
思い出せない
私の両親の顔
その体温と声
そして私につけられた名前は
思い出せない
私が生きていた遠い過去
死んだように生きていた日々
そして私が伝えたかった言葉を
思い出せない
私が私でなくなってしまった
思い出せない
思い出せない
思い出せない

芽吹きが季節が終わり長い長い夏が過ぎ去って冬の中に私たちは置き去りにされる
割れた温室の中あと何度これを耐えればいいのか
少なくとも死んではいけない
けれど生きてもいけない
もうそろそろ思い残すことも無いのでこの体は朽ちてしまえと思うがそれを許されることもなく
許しを請う声を誰かに届けることもできない
でも それでも

思い出したい
病室の中交わした約束
ずる休みをして二人で行ったところ
そして彼が最後に何を残したのか
思い出したい
私の両親の顔
その体温と声

そして私につけられた名前は
思い出したい
私が生きていた遠い過去
死んだように生きていた日々
そして私が伝えたかった言葉を
思い出したい
私を返せ 私を返せ
思い出せ
思い出せ
思い出せ